

参考資料 ② アライグマ・ハクビシンに関する主な人獣共通感染症

(1) 狂犬病

【病原体】 狂犬病ウイルス

【感染経路】 狂犬病にかかった動物による**かみ傷**等から感染する。

【動物の症状】 狂躁型（凶暴性を示し、見境なくかみつく）と麻痺まひ型（頭、首の筋肉が麻痺する）とある。いずれも昏睡して死亡をしてしまう。

【人の症状】 潜伏期は咬まれた部位によって3日から3ヶ月（場合により2年）。発症すると様々な神経症状が現れ、昏睡に陥り死亡する。発症した場合、救命手段はなく、ほぼ100%死亡する。

(2) トキソプラズマ症

【病原体】 トキソプラズマ原虫

【感染経路】 感染したネコの糞便で汚染された環境や加熱不十分な食物を介して人の口から入ることで感染する。

【動物の症状】 幼若のものに症状が出る 경우가多く、肺炎、脳炎等を起こす。

【人の症状】 妊婦が初感染した場合、流産や胎児の先天性障害（脳炎、脳水腫、発育障害等）をまれに起こすことがある。また、成人では感染しても無症状であることが多い。

(3) エキノコックス症

【病原体】 エキノコックス属条虫

【感染経路】 感染したキツネや犬等の**糞に排泄される虫卵が、水や食物を介して人の口から入る**（犬は中間宿主の野ネズミを食べることで感染する）。

【動物の症状】 キツネ、犬ではほとんど無症状。

【人の症状】 感染初期（約10年以内）は無症状。進行すると、肝腫大、腹痛、黄疸、肝機能障害等が現れる。

(4) サルモネラ感染症

【病原体】 サルモネラ

【感染経路】 飲食物（特に食肉・卵）を介しての感染が主だが、**動物の糞**が感染源になる場合がある。

【動物の症状】 幼獣は下痢や、おう吐等を起こすが、成獣は無症状であることが多い。

【人の症状】 発熱、下痢、おう吐等の急性胃腸炎を起こす。乳幼児では、菌量が少なくても発症することがある。また、健康な人の便から菌が検出されることもある。

(5) カンピロバクター感染症

【病原体】 カンピロバクター

【感染経路】 飲食物（特に食肉）を介しての感染が主だが、**動物の糞**が感染源になる場合がある。

【動物の症状】 犬、猫で下痢を起こす場合があるが、多くは無症状である。

【人の症状】 発熱、粘血ねんけつ便を伴う腸炎がみられる。乳幼児では菌量が少なくても発症することがある。また、健康な人の便から菌が検出されることもある。

(6) エルシニア感染症

【病原体】 エルシニア・エンテロコリチカ

【感染経路】 飲食物（特に豚肉）を介しての感染が主だが、**動物の糞**が感染源になる場合がある。

【動物の症状】 まれに下痢等がみられるが、多くは無症状である。

【人の症状】 下痢、胃腸炎、虫垂炎、関節炎、敗血症等がみられる。

(7) アライグマ回虫幼虫移行症

【病原体】 アライグマ回虫

【感染経路】 幼虫包蔵卵を含むアライグマの**糞で汚染された土壌**その他を経口的に摂取することによって生じる。

【動物の症状】 アライグマ回虫はアライグマの小腸に寄生し、アライグマに対しては病原性を示さない。

【人の症状】 摂取した虫卵の数と幼虫の移行部位により症状は異なり、中枢神経系に移行した場合は髄膜脳炎を発症し、眼球に移行した場合は網膜炎を発症し、視力障害や失明を引き起こす。

(8) 重症急性呼吸器症候群（SARS）

【病原体】 SARS コロナウイルス

【感染経路】 **感染動物の糞**により飛沫感染および経口感染により人へと発症する。

【動物の症状】 症状は動物種により異なるが、ハクビシンでは 38°C前後の発熱が潜伏期の後から4日間くらい続き、倦怠、攻撃性の減弱、白血球減少が感染後13日目まで持続して認められその後回復する。

【人の症状】 発病当初は発熱、悪寒戦慄、筋肉痛などのインフルエンザ様の症状を示す。

(9) 皮膚糸状菌症

【病原体】 糸状菌

【感染経路】 **感染動物との接触**や、家の中のほこりが原因の場合もある。

【動物の症状】 脱毛したり、表皮がはがれたりする。また、皮膚が厚くなったり等、症状は多様だが、無症状のことも多い。

【人の症状】 動物の症状と似て多様だが、その他、円形・不整形の白っぽい輪ができたり、小さい水泡ができたりし、かゆみを伴う。

(10) 疥癬

【病原体】 ヒゼンダニ

【感染経路】 **感染動物との接触。**

【動物の症状】 表皮内にダニがトンネルを掘るため、非常にかゆく、脱毛や、皮膚が厚くなったり、かさぶたができてたりする。また、引っかいて化膿することもある。

【人の症状】 動物と同じ症状を示す。

(11) 日本紅斑熱

【病原体】 リケッチア・ジャポニカ

【感染経路】 **病原体を保有するダニに刺咬**されることで感染する。

【動物の症状】 不明

【人の症状】 頭痛、発熱、倦怠感を伴う。発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、ほとんどの症例にみられる。

(12) ツツガムシ病

【病原体】 つつが虫病リケッチア

【感染経路】 つつが虫病リケッチアを保有する**ツツガムシに刺されて**感染する。

【動物の症状】 げっ歯類は症状が出ない。

【人の症状】 全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などを伴って発症する。

(13) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

【病原体】 SFTSウイルス

【感染経路】 **ウイルスを保有しているマダニに直接咬まれる**こと、もしくは、**マダニに咬まれて感染した動物(野生、屋外で飼育されている動物)の体液**などにより感染する。

【動物の症状】 発熱、白血球減少症、血小板減少症、食欲消失等の症状が認められる。

【人の症状】 主な症状は発熱と消化器症状(おう吐、下痢など)が中心で、倦怠感、リンパ節のはれ、出血症状なども見られる。致死率は6%から30%といわれている。

(14) レプトスピラ症

【病原体】 レプトスピラ

【感染経路】 動物の腎臓に入り込んだ菌が尿中に出て、この**尿により**、又は**尿で汚れた水により**皮膚から菌が感染する。

【動物の症状】 犬に対して腎炎等を起こす。

【人の症状】 発熱、出血、黄疸、腎障害等が見られる。

(15) E型肝炎

【病原体】 E型肝炎ウイルス

【感染経路】 E型肝炎ウイルスに汚染された食物、水等の摂取により感染する。

【動物の症状】 豚は無症状であるが、病理学的検査では肝臓に軽度の炎症像が確認される。

【人の症状】 発熱、悪心、食欲不振、全身倦怠感、腹痛等の消化器症状が見られる。

(16) サルモネラ菌食中毒

【病原体】 サルモネラ

【感染経路】 飲食物（特に食肉・卵）を介しての感染が主だが、動物の糞が感染源になる場合がある。

【動物の症状】 幼獣は下痢や、おう吐等を起こすが、成獣は無症状であることが多い。

【人の症状】 発熱、下痢、おう吐等の急性胃腸炎を起こす。乳幼児では、菌量が少なくても発症することがある。健康な人の便から菌が検出されることもある。

(17) カンピロバクター菌食中毒

【病原体】 カンピロバクター

【感染経路】 飲食物（特に食肉）を介しての感染が主だが、動物の糞が感染源になる場合がある。

【動物の症状】 犬、猫で下痢を起こす場合があるが、多くは無症状である。

【人の症状】 発熱、粘血ねんけつ便を伴う腸炎がみられる。また乳幼児では菌量が少なくても発症することがある。健康な人の便から菌が検出されることもある。

(18) エルシニア菌食中毒

(6) エルシニア感染症 と同様

参考文献

- ・厚生労働省 HP 「動物由来感染症」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index.html
- ・国立感染症研究所 HP <https://www.niid.go.jp/niid/ja/>
- ・公益社団法人 東京都獣医師会 HP 「人と動物の共通感染症ガイド」
<https://www.tvma.or.jp/activities/guidance/>
- ・東京都福祉保健局 東京都動物愛護相談センターHP 「人と動物との共通感染症」
<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/douso/kansen/index.html>
- ・「アライグマ防除の手引き（計画的な防除の進め方）」 環境省自然環境局
https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/araiguma_tebiki_kansei.pdf